

○御互様に研究

以上通讀すると、いづれも幼稚園教授を有効と認めて居る。元より此の報告書は、幼稚園教育を有害と論評した分を、バドラ博士が打放つて、幼稚園賛成論のみを編輯したのでない事は明瞭である。して見ると、米國に於ては、幼稚園教育を或は無用だとか、或は有害だと論ずる人はいないやうである。それのみか、寧ろ學校系統の中に入れるが善いと論じもし研究もして、終に其説を採用して居るセントルイス地方さへある。然るに日本では學者達の意見よりも、寧ろ兒童教育の實際家から論難されて居るのは如何なる譯か分らない。職務上幼兒教育に従事して居るものは、一層奮勵努力して研究に研究を重ね、改良に改良を加へて、米國の幼稚園教育が小學校の教員より、曠賞されるまでに到達したいものである。

○机邊より (二)

|| ジャン、クリストフの中から ||

……さて、彼(ジャン、クリストフ)は兩手で兩足を握つて、地の上に坐つてゐる。彼は靴ふきを舟になし、瓦の床を河にして居る。毛氈の上に乗つたものは溺れたもの。けれ共、誰も這處事に氣をつけないで室に這入つて來るから、彼は苛々する。遂には、お母さんの裾をとらへつて、「母ちゃん、こゝ、河よ、橋をお渡り。」と云ふ。橋とは煉瓦の間の穴の一行を云ふのだ。お母さんは耳も傾けずに行つて仕舞ふ、彼は、戯曲家が筆をとつて居る時、人がドチャガチャ云ふのを怒る様に叱り出した。暫くすると、最早、そんな事は考へない、床は、早、海ではない。彼は其の上に手足をひろげて寝てゐる、瓦に頭をおさへつけ、拇指を喰へ、ヨダレを垂らしながら、自作の歌をウウッーを歌つて居る、そして、瓦の間に寝そべつて何か考へて居る、並んだ瓦は顔の様、小さな穴がだん／＼大きくなつて遂には谷になり、其の邊が山になる、一匹の百足が、はつて居る、それが象の様に大きい。どんな危険な事があつても、子供は平氣なものである。——(66頁へ)

こゝに私の暴言の愚を許して下さい、終りにただ現在の各國の兒童の運動問題がやかましくなつて來た時に、一面在來の學校體操に對して、興味深き運動競技が漸次その範圍を擴大しつつある今日更に一面遊戯の表情的獨專の夢を破つて身體運動を尊重したる然も興味ある律動遊戯が生れて來たといふ事は實によろこばしい事であり、創案者たる先生の益々健康にして更に一步の努力を、しまれざらん事を切に祈る次第であります。——(七、十二、十五)——

○机邊より (二)

……生垣に沿うて枯枝が落ちて居ると、「果^はな、これは何だらう」と考へて見る、これは魔法の杖だなあ。もし細長ければ槍となり、劍となる、それを振りまはすと、地の中から兵隊が湧いて來る。クリストフは、其大將になつて眞先に進んで横^{はん}範を示して、小丘の攻撃にと向ふ。若し杖が挽め易ければ鞭になる、そしてクリストフは馬に乗つた氣になつて断崖から断崖へと飛んで行く。何うかすると其馬が、すべつて、騎士が泥底に倒れ、汚れた手と、すりむいた膝とを悲しげに眺めて居る。拾つた杖が柔らかだと彼は樂隊長になりましたり、自ら樂隊になつた氣になつて調子をとつたり歌つたりして、叢に挨拶をする。叢は縁の頭を風に動かして居る。……(81頁へ)

ノ屈伸ヲ行フ（とん屈シできニテ伸シたニテ

屈ス）

いますぐ。出シタル右足ヲ左足ヨリモ一步後ロ

ニ引クト同時ニ右手ヲ翳シ右上ヲ眺ム

みないと。左足ヲ右足ヨリ一步後ロニ引クト同

時ニ左手ヲ翳シ左上ヲ眺ム

かくれま。右足ヲ左足ヨリ一步後ロニ膝ヲ屈シ

テ、スリツ、引ク時兩手ヲ左右側ヲ通シ、後

ロヨリ上へ頭上ニ運ビ上體ヲヤ、前ニ屈シ兩

指ヲ頭ノ前ニテ合ス

す。ニテ直立ノ姿勢ニ復ス。

○机邊より (三)

……彼はまた魔法使となつた。大股に野を闊歩しながら空を仰いで、大手を打振る。そして雲に命令する。「右に行け!!」と命じたけれども、左へ行つた。すると、此奴、何故、俺の云ふ事を聞かないかと云つてまた命令する。彼は横目して雲行を瞋みながら念じて居るけれ共、やつぱり雲は悠々として左の方へと行く。其處で今度はウンと地を踏みつけ、ステツキで其雲を嚇かし、苛々しげに、「左へ行け」と命ずれば、今度は、從順に左の方へと流れ行く。かうして彼は自分の力を誇つて喜んで居る。彼は、また、花に觸つて「黄金の車になれ」と命じた。仲々變らないけれ共、辛棒してゐたら變らだらうと思つて居た。蟋蟀を兎になさうと思つて瞋み、杖を靜つと其の背にのせて穩秘を唱へた。蟋蟀はヒョン／＼逃げる、「こいつ逃げてはならぬぞ」と其逃げ道を遮る、暫くすると彼は匍つて其に近寄つて見て居る、すると、もう、魔法使であつた事は打忘れ、哀れな其兎を捉へて仰向になし、ケラと笑つて居る。

——ローマン、ローラン——